

順位	氏名（議席）	発言の要旨
14	川窪 吉男（29）	1. 熊本地震での煙突倒壊事故を受けての本市の課題と対策について 10年前の2016年4月14日夜、最大震度7の前震、2日後の4月16日未明にはマグニチュード7.3の本震に見舞われた熊本地震では、278人の犠牲者と熊本県民の8割に当たる約148万人が被災され、約18万人が避難所生活を余儀なくされました。あれから10年目の今年2026年7月28日午後4時27分、マグニチュード7.1、最大震度7の地震が熊本県を襲いました。多くの犠牲者を出し、ビルや家屋の倒壊、一部地域では停電や断水、火災などの被害が出ました。テレビニュースを見て驚倒したのは、日本製紙八代工場の煙突の倒壊でした。 紙のまち富士市では多くの製紙工場があり、煙突も多く見られます。平成14年度に静岡県は、地球温暖化対策の普及促進や地震災害の予防、日本一の富士山の景観向上を目的に、県内でも特に高い煙突が多い富士地域の事業所を対象に富士地域煙突ゼロ作戦事業を展開し、撤去費用に対する支援の方針を示しました。本市もこれに合わせて富士市煙突撤去モデル事業として、煙突撤去にかかる費用の一部を助成することで、防災上の安全や景観の向上を図ることにしましたが、この事業は平成22年に終了しました。富士市では今回の熊本地震における工場の煙突倒壊を受けて市内の28事業者に対し耐震性点検や安全確認などを求める文書を出しました。そこでお伺いいたします。 (1) 本市で平成14年度から実施した富士市煙突撤去モデル事業ではどれだけの煙突を撤去したのか伺います。 (2) 本市では事業所に設置された煙突の設置状況や老朽化の現状についてどのように認識しているのか伺います。 (3) 事業所の煙突は所有者の私有財産とはいえ、万が一倒壊した場合には人命に関わるので、所有者に対して自主点検や撤去に関する情報提供をすべきと思うが、見解を伺います。 2. 千葉豪雨や各地の豪雨災害を受けての本市の課題と対策について 8月の千葉豪雨をはじめ列島各地でゲリラ雷雨や線状降水帯が発生し、予想を上回る降水量で、各地の河川の氾濫や洪水により多くの住宅などの被害が発生しました。本市には多くの中小河川や用水路、また、地下道（アンダーパス）などが存在しています。そこでお伺いいたします。 (1) ゲリラ雷雨や線状降水帯による想定外の降水量が懸念される中、大雨に対する河川や用水路の対策はどのようにしているのか伺います。 (2) 市内にはアンダーパスが多くありますが、近年の線状降水帯の多発化など、激甚化する豪雨に対し、市が管理するアンダーパスにある排水ポンプの稼働状況や定期的な点検やメンテナンス体制はどのように行われているのか伺います。 (3) 市民の命を守るため、冠水による車両の水没事故や立ち往生を防ぐため、ハード、ソフト両面でどのような対策を進めているのか伺います。